

資料1

第1回北区まちづくり懇話会

北区役所 総務企画課
2023年8月17日



昨年までの取組と今後について

- ・前提として、区の特性を活かしたまちづくりの方針を示した「北区まちづくりビジョン」の年次計画期間は、平成25年度(2013)～令和4年度(2022)までとなっていた。(次期総合計画の改定時期に合わせるため1年延長)
- ・令和4年度に、第5期北区まちづくり懇話会委員・各地域団体の代表から意見を聴取し、ビジョンの検証を行った。
- ・その際、北区まちづくり懇話会からは、今後の取り組むべき施策についてもご提案をいただいた。
- ・懇話会からご提案のあった区長との対話の場として、区民会議「北区長おでかけトーク」を設置し、次期総合計画等に反映。
- ・今後、新しい北区まちづくりビジョンは作成せず、次期総合計画に各区共通の方針や区ごとに特性等を盛り込む予定。
- ・懇話会の皆様には、今後のまちづくりの柱となる方針やまちづくり推進経費等についてご意見をいただきたい。(詳細はP2参照)

①昨年度(令和4年度)のまちづくり懇話会の取組内容等について



②今年度(令和5年度)の北区まちづくり懇話会の動き

まちづくりビジョンは今年度まで継続。区民会議による意見聴取 ▶ 次期総合計画への意見反映
まちづくり懇話会 第2回以降の審議内容 ▶ 「北区まちづくりの方針について」をテーマ

③第1回北区まちづくり懇話会の審議内容

1. ビジョン検証の振り返り
2. 区民会議「北区長おでかけトーク」
3. 次期総合計画内 各区の特性について

第6期まちづくり懇話会の皆様からご意見いただきたい事項

北区まちづくりビジョンの動き

北区まちづくりビジョン

(平成25年度(2013)～令和5年度(2023))

- ・ 北区の概要
- ・ 現状と課題
- ・ めざす区の姿と基本方針
 - 1 めざす区の姿
 - 2 まちづくりの基本方針
 - 3 地域別の取組方針
 - 4 ビジョンの推進に向けて

次期総合計画 (抜粋)

(令和6年度(2024)～令和13年度(2031))

- ・ ビジョン (分野別施策)
- ・ 区における自主自立のまちづくり
 - 1 基本方針 (全市的)
 - 2 各区の特性 (地理的概要や特徴)

北区まちづくりの基本方針

(北区の方針がどこにも掲載されない)

第6期まちづくり懇話会の皆様からご意見いただきたい事項

北区まちづくりの方針

- 1 北区のまちづくりを進める上で柱となる、北区の特性を踏まえた重点的に取り組むべき方針

まちづくり推進経費

- 2 区のまちづくりの方針に基づき、区の特性をいかしたまちづくりを推進 (予算: 2,000万円)

地域課題等の意見交換

- 3 地域が抱える課題等を共有し、協働による暮らしやすいまちづくりを推進。

- ・ 本庁所管課への要望・施策提言
- ・ 総合計画への反映

北区のデータ収集と分析
(校区カルテ)

(参考) 第3期まちづくり懇話会

平成30年の第3期北区まちづくり懇話会からいただいたまちづくりの方針は以下の2点

- 1 誰もが楽しく集い、「笑顔」が広がる「場」の創出
- 2 健康の大切さを知り、お互いを思いやり支え合う気持ちの醸成

社会構造の変化や目まぐるしい時代潮流の中においても、様々な課題を解決しながら、誰もが明るい未来を展望し、希望を抱くことのできるまちづくりを目指す。

第6期まちづくり懇話会・北区長おでかけトークからの意見提言を踏まえ、北区独自に「北区まちづくり方針」を策定

区民の方々に広く知っていただくために

- ・ ホームページやYouTube動画による公表
- ・ 北区長おでかけトークによる説明
- ・ 校区自治協議会等の地域団体への説明

第6期懇話会 スケジュール

	令和5年度(2023年度)												令和6年度
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
まちづくり懇話会				●ビジョン検証委員への報告等	●第1回開催 (次期総合計画へのご意見) (区長と地域や各世代との対話の場の設置)			●第2回開催 (北区まちづくりの方針・地域の情報についての意見交換①、カルテ項目検討①)				●第3回開催 (北区まちづくりの方針・地域の情報についての意見交換②、カルテ項目検討②)	
区内検討		●北区ビジョン検証まとめ概要版作成	●ビジョン検証二役報告議会報告		北区のまちづくりの方針の検討 地域・校区の状況の情報収集・整理、分析→カルテ策定								
(参考) 区民会議					●まちづくり懇話会の機会を通して開催								
					各種団体等への意見聴取								
(参考) 総合計画策定の動き		●議会 ・総合計画検証 ・総合計画(策定方針)		●市長とドンドン語ろう!(北区)		●議会 ・総合計画(骨子)		●議会 ・総合計画(素案)		●議会 ・総合計画(原案)			
	第7次総合計画の検証(政策評価)				次期総合計画(第8次)の策定								
												北区まちづくりの方針の策定	
												市総合計画策定	3

本庁と区役所の役割

本庁

全市的施策の
立案、実施



都市経営
(税制や財政運営など)



〇〇省

国や県等との調整

等

区役所

身近な市民
サービスの提供



地域の課題発見



市民公益活動の支援

等

施策提案

- 応援派遣や物資の要請
- 被災者生活支援、医療・衛生等総合調整
- 生活環境の維持(ごみ、インフラ、家屋等) 等

- 被災支援拠点運営
- 避難所運営
- 家屋被害調査・罹災証明 等

平常時

災害時

区役所の主な機能(業務)

区の魅力を活かしたまちづくりの推進や市民に身近な手続や行政サービスを総合的に提供

主な機能① まちづくり支援機能

主な機能② 住民サービス機能(窓口手続きなど)

組織	主な業務
総務企画課(選挙管理委員会事務局)	区の重要施策の立案及び総合調整、コミュニティ交通、防災、広報、統計、文書管理、庁舎管理 地域コミュニティ活動支援、町内自治会、交通安全、防犯、環境、相談窓口、体育施設の使用許可 選挙管理委員会の運営、選挙の執行に関する事 など
まちづくりセンター (植木・北部・清水・龍田)	地域コミュニティ活動支援及び推進、町内自治会及び校区自治協議会等の相談及び支援、地域の 相談・要望・陳情等に関する事、地域情報の収集、行政情報の提供、市民公益活動の相談及び支援、 生涯学習支援に関する事 など(地域担当職員)
区民課	戸籍・住民登録、印鑑登録、諸証明書発行、国民健康保険、後期高齢者医療保険、国民年金、パス ポート申請・交付、個人番号カード、公的個人認証サービス(電子証明書の発行) など
総合出張所(清水・龍田)	戸籍・住民登録、印鑑登録、諸証明書発行、国民健康保険、後期高齢者医療保険、国民年金の一部事 務、さくらカード発行など高齢者・障がい者福祉に関する一部事務、子ども医療費の助成に関する業務
福祉課	介護保険、高齢者福祉、障がい福祉、福祉相談 など
保護課	生活保護法関係業務
保健こども課	健康づくり、母子保健、成人保健、精神保健、歯科保健、栄養改善・食育推進、児童福祉、 児童手当・児童扶養手当、児童虐待、保育園入所受付 など
土木センター	道路・河川・公園等の維持管理、道路関係証明の発行 など

主な課題の整理

ご説明してきました「市長とドンドン語ろう」と「ビジョン検証資料」で挙げられました主な課題は以下のとおりです。

なお、ビジョン検証での主な課題は、区役所業務として取り組める内容にしております。

市長とドンドン語ろう

① こども・子育て

② TSMCの熊本進出

③ 交通

ビジョン検証資料

④ 北区の人口減少

⑤ 地域の担い手不足

⑥ 観光資源の活用

第8次総合計画内 区における自主自立のまちづくり(案)

(1) 基本方針

少子高齢化や人口減少が進展するなか、持続的な地域社会を維持するためには、住民同士が多世代でつながり、お互いが助け合う住民主体の地域コミュニティをつくる必要があります。

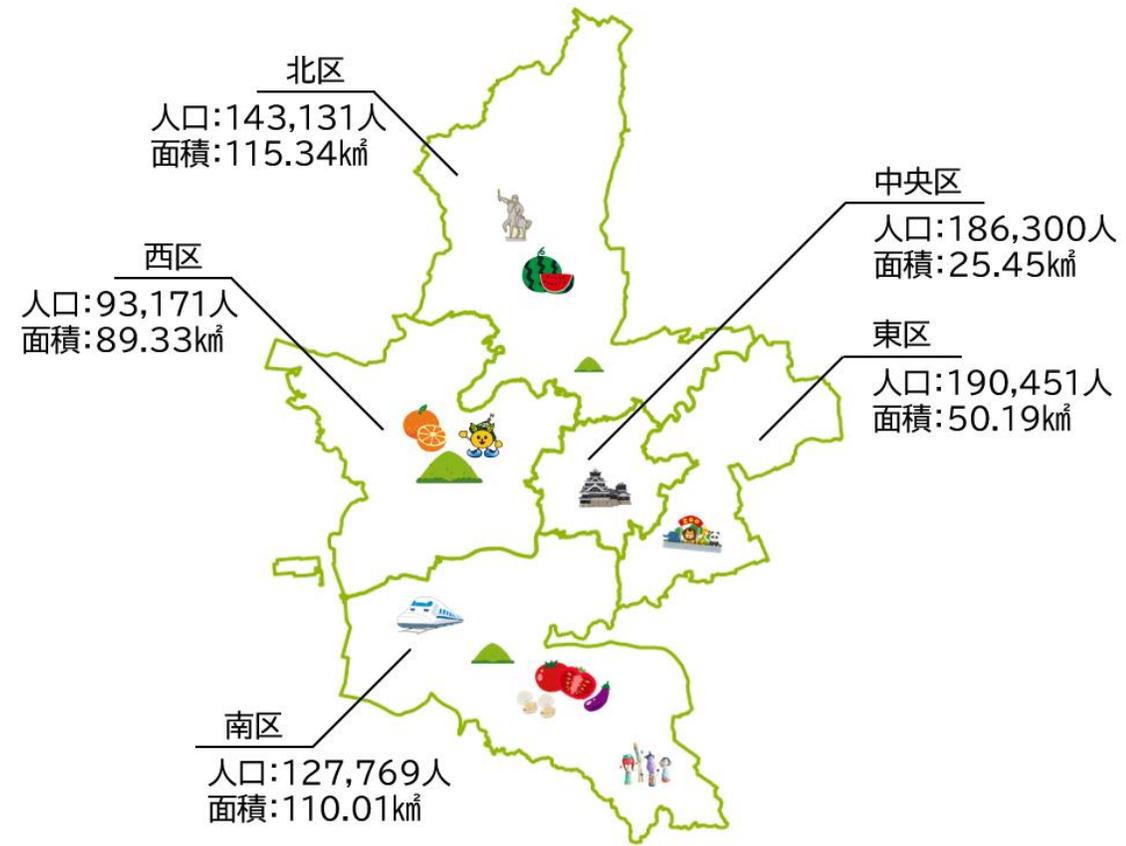
そのために、住民に最も身近な区役所は、地域の実情や多様な区民ニーズを積極的に把握することに努め、住民自らの創意工夫による自主自立のまちづくりを支援します。

まちづくりの支援に当たっては、次に掲げる方針に基づき、その取組を進めます。

【基本方針】

- ①当該区における地域の魅力を生かしたまちづくりを推進します。
- ②住民同士、特に多世代がつながり、支え合える環境を整備するほか、地域において活動している様々な個人・団体間の協力、連携を促進させます。
- ③住民が地域活動に参加しやすく、また、生きがいを持てるような環境の整備に取り組みます。
- ④各区が抱える地域課題を解決し、各区が持つ魅力を向上させるため、デジタルの力を取り入れ、地域の活性化を図ります。

また、区役所は、区によるまちづくりをより効果的で実効性のあるものにするため、本庁と地域の実情や区民ニーズを共有しそれらを本市の施策に反映させる等本庁と連携しながら、区の特性を活かした持続可能な地域となるようなまちづくりに取り組みます。



第8次総合計画内 区における自主自立のまちづくり(案)

(2) 各区の特性

中央区

中央区は「まち」、「歴史・文化」、「自然」が調和し、共存しながら発展してきました。

熊本市の中央に位置し、他の4区と隣接しており、市役所本庁舎や県庁、商業施設等が集中する熊本の中心地です。熊本城をシンボルとして発展した西日本有数の繁華街を有しており、ほぼ区の全域が市街地となっています。また、風情・人情ある城下町が現存し、立田山の豊かな緑、水前寺成趣園や江津湖等の湧水といった自然が育まれています。

5区の中で、人口密度が突出して高く人口が集中しているとともに、大学などの高等教育機関、多くの高等学校や企業等も立地していることから、他区からの通勤・通学、買い物客が多く、昼夜の人口差が大きいという特徴があります。

また、熊本市内のマンションの3分の2近くが中央区にあり、中央区の世帯の推定マンション率は、全市平均及び全国平均と比べて極めて高くなっています。

将来的には、人口減少、高齢化の進展が見込まれることから、地域の絆を広め、深めていくこと、地域に暮らす人々の価値観やライフスタイルの多様化等により複雑化した地域課題に対応した新たな地域コミュニティを構築していくことが求められています。

東区

東区は、区域内に九州自動車道が走るほか、国道57号(通称東バイパス)や一般県道熊本空港線(通称国体道路)、主要地方道熊本益城大津線(通称第二空港線)、主要地方道熊本高森線(通称電車通り)等の主要幹線も走っています。また、商業施設や医療機関、学校や福祉施設等も多く都会の姿を見せる一方で、北には託麻三山や運動公園、南には江津湖が広がる都市の利便性と自然とが調和した住環境に優れ、5区の中で人口が一番多い地域です。

特に水前寺江津湖公園をはじめとした東区の自然は、身近で緑を感じられる場として市民に広く親しまれており、これら自然の保全や活用したまちづくりが期待されています。

また熊本地震の被害が大きかった東区では、地域が主体となり校区内の小学生を対象とした防災キャンプの実施や地区防災計画を本市で最初に策定するなど防災に関する取組が活発に行われている一方で、熊本地震の記憶や教訓を忘れがちになっていると感じる区民の割合も少なくないことから、災害に強いまちづくりの更なる推進が必要です。

第8次総合計画内 区における自主自立のまちづくり(案)

(2) 各区の特性

西区

西区の中央部から北部にかけて金峰山系の山地があり、南部に平野部が広がっています。平野部には東西に阿蘇山を源とする白川や北区を源とする坪井川・井芹川が貫流し、日本最大級の干潟を有する有明海に注いでいます。

北西部は、豊かな自然とその恵みにより熊本ブランドであるみかんやノリなど、農水産業が盛んであるとともに歴史的遺産も数多く、祭りや神楽などの伝統文化も受け継がれるなど、地元の結びつきが比較的強い一方で、人口減少が著しく、様々な分野での担い手不足が懸念されます。

上熊本周辺地区では古くから市街地が形成されており、熊本駅周辺では再開発による近代的な街並みが形成されています。また人や物の交流拠点である熊本駅や熊本港、市民の台所である田崎市場を有しています。

このように、西区は区域も広く、山や平野部などその地理的特徴や都市構造の違いから「金峰山系エリア」「有明海沿岸エリア」「上熊本周辺エリア」「熊本駅周辺エリア」「西部エリア」の5つのそれぞれ特徴あるエリアに分かれており、エリア毎に課題を整理し、地域の実情に合ったまちづくりに取り組む必要があります。

南区

南区は、区内の大部分が水田からなる農業の盛んな地域で、加勢川、緑川など一級河川が貫流し、天明新川や浜戸川など多くの中小河川が区内を流れています。

また、四季を彩るのどかな田園風景を望み、ナス・トマト・海苔・ハマグリ等の豊かな農水産物、アクアドームや浜線健康パークなど健康づくりの拠点となるスポーツ施設の集積、富合・城南工業団地、熊本流通業務団地及び新幹線熊本総合車両所など熊本の製造業・運輸業の拠点、国・県・市の指定文化財や史跡等の多くの歴史的資源、身近に親しむことのできる山・川・海の自然等、たくさんの“たからもの”があります。

近年では、宅地開発の進展に伴い、平成24年からの人口増加率が5区の中で最も高くなっており、年齢別人口比率の推移について平成24年と比較すると、15～64歳の生産年齢人口の減少、65歳以上の老年人口の増加は5区共通していますが、14歳以下の年少人口については唯一増加している区となります。

一方で、区内における人口増加地域と減少地域の二極化、慢性的な交通渋滞や利便性の低い地域公共交通、町内自治会・農漁業・文化活動・福祉などあらゆる分野の担い手育成等の地域課題があり、課題解決に向けた取り組みが必要です。

第8次総合計画内 区における自主自立のまちづくり(案)

(2) 各区の特性

北区

北区は、5区の中で最も広大な面積を有するとともに、熊本市の北部に位置し、山鹿市、菊池市、合志市、菊陽町、玉東町に隣接しています。

区内には、多くの河川や阿蘇山系の伏流水が湧き出す八景水谷水源などの湧水、金峰山系や立田山などの森林など、自然環境が豊かな地域です。また、米や野菜、特にスイカやメロンなどの農産物の生産が盛んで、地域の特産品として広く愛されています。

さらに、田原坂や武蔵塚などの歴史的な文化遺産や植木温泉などの観光資源も存在します。地域活動も盛んで「過去1年間に地域活動に参加したことがありますか」とのアンケートでは、市全体の平均値より高く、上位に位置しますが、この10年間で見ると人口減少と少子高齢化が進んでいます。

今後、大手半導体メーカーTSMCが隣接する菊陽町に進出することで、人口増加と地域経済の活性化が期待されます。これらの変化に対応するために各地域の良さを引き出すことで区全体の交流や区民と区役所の協働をさらに促し、区民満足度の高い魅力あるまちづくりを進めてまいります。

